

# 花火

作詞 ひろと 作曲 銀杏ふみ

夜店で買った水あめを持った  
浴衣で佇む 君がとても愛しく思えた

夏の夜空に輝く 光の花  
川辺に腰掛け 二人空を見上げる

天に昇っていく 光のつぼみが  
移りゆく季節を 惜しむ様に

次々と鮮やかな 花を咲かせ  
心を揺らしては またすぐに静けさが戻る

祈る様に 夜空を見上げてる  
君の横顔が 少し悲しそうに映ってる

「これまで幾度ここに来たかな ねえ」と言いかけて  
君が ふと瞳を伏せた

花火の音が時を止めた  
どこまでも続く 満天の星

ふいに何か語りかけた 君の言葉が  
歓声にかき消されてはすぐに 静けさが戻る